

# 瑞龍寺 花園会だより

## 第7号

(平成25年 7月発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会  
 〒064-0802 札幌市中央区南2条西21丁目1-8  
 電話(011)611-3228/FAX(011)613-8458  
 編集責任者 花園会会長 長尾 章郎

大震災の年の被災寺除夜の鐘



### 東日本大震災供養巡礼記

瑞龍寺住職

皆川 彰久

拙僧、四月十二・十三日の二日間、当山檀信徒三名と供に以前住んでいた宮城県気仙沼に向かつて、大震災で被害を受けた地域を今年三回忌に当たり巡礼しました。

仙台空港に近づくにつれ、機内の窓から見える海岸付近の土地は今も荒涼とした茶褐色の景色が南北に帯状に広がっています。到着したコンコースにはこの高さまで津波が来たことを示す標示版が貼ってあり、そこは三メートルを越えていました。すぐにレンタカーで高速道に入り、まずは南三陸町の防災センターに直行する。途中石巻インター近くの日赤病院を車中から移転したもので、田んぼの中に出現した二十階程の巨大総合病院で、今度の震災で被害者三千名以上を受け入れたことはテレビ報道などでよく知られている。内陸地方を走行していた三陸自動車道は登米市の田園地帯で終わり、今度は山間道路を三十分程三陸の海に向かって走る。道路は狭いながら、この地方で唯一災害援助物資を運び、避難できた海と内陸を結ぶ貴重な一本道だ。

峠を下ると河川沿いに褐色になって枯れた杉・松が見えてきた。海から十キロも離れた狭い山間地まで津波が川を遡上した証拠だ。町に入ると以前よく役所の会合で来た五階建ての南三陸町合同庁舎が跡形もなく消えていた。その近くには、一人の女性職員が最後まで町民にアナンスで避難誘導した防災センターが鉄骨だけ無残にさらけ出し、四月にしてはまだ寒々とした強い海風に切れ切れになった大きなビニール片が舞っていた。一瞬それはチベットのお寺で強い風にはためく幡に似ていると錯覚した。正面玄関の登壇には供物・線香が添えられ、私たちも無言で手を合わせるすべしかなかった。

周囲の町並みがすべてなく川と海が直かに見えている。大谷海岸、美しかった松林と湾曲の砂浜も流され、今は波の浸食を防ぐ為の大きなビニール土のうが積み上げられていた。昼すぎに気仙沼地福寺に到着、さっそく土台だけの鐘楼跡でお経を上げる。終わって顔を上げればやはり懐かしい周辺の家並は全くなく、遠くに青い海原と波が見えるだけ。その海近くに新しい工場らしき建物が出来たのかと思つたら、震災のガレキ処理工場だとの和尚の説明。なる程新しい道路があちこち作られて、すべて工場に向かっていた。ダンンプ等の大型車輛だけが埃をあげながら列をなして走っていた。修理した本堂に入り、震災で亡くなった方々百五十余名の檀家の遺影写真に圧倒された手を合わせるしかなかった。その中には話をし、談笑した懐かしい人達もいた。その相手に対し、かつての事どもを思い出しながら無言の対面しか出来なく、又合掌して祈るしかなかった。三度目の訪問であっても只空しさが募るばかりで何も出てこない。この後、十一月二十三日当山開山忌に札幌に来ていただき、津波体験談音楽説法をお願いして寺を離れた。

次の日、松島瑞巖寺僧堂で東北六県から集まった檀信徒の先祖と大震災供養法要に他の和尚とともに参加した。ここは、松島湾という天然の要害地の為、島々が津波の防波堤となり境内まで波がかぶらなかつた。さらに、国宝本堂は四百年ぶりの全面解体工事中でたいした被害はなかつた。本堂前の一對の紅白臥龍梅もまだ寒く、咲いていなかった。法要後、僧堂手作りの精進料理をごちそうになり帰りにつく。途中東北一の宮である塩釜神社を参拝。梅と桜の下で花見客を見ながら空港に到着。帰路についた。

### 境内地外壁工事についてのお知らせ

五月に境内地外壁工事建設委員会を設け、劣化し、また冬期間の積雪の除雪作業時に近隣マンションから「雪が入ってくる」等、苦情もあつたりということ、近隣に迷惑のわからないような外壁を造らうと、数回にわたり検討・協議いたしました。

工事業者三社から見積り及び施工意図の説明を受け、それぞれに改善を求め、案を絞り込みました。

当寺の日常性（外壁の大部分が駐車場であるため）を考慮しつつ工事を行うため、年度を跨いで施工することになりました。



工期： 北・東・南面は2013年9月～10月末まで。  
西面は 2014年5月～6月末まで。

概要： ① ③ ④ は ② は 既設の外壁に倣う



### 栽松塔法要のご案内

日時 8月25日(日曜日) 午前11時  
場所 真駒内滝野霊園 栽松塔  
瑞龍寺永代供養法要

昨年真駒内滝野霊園に建立しました栽松塔にて永代供養法要を執り行います。

### 開山忌法要及び記念講演のお知らせ

大震災 節語り体験法話 しめげない・にげない・くじけない

平成25年11月23日(土・祝日)

瑞龍寺本堂 開山忌法要 13:00 記念公演 14:00

住職 片山秀光・演奏家 カッサパ

宮城県気仙沼市地福寺の住職は未曾有の東日本大震災で自らも命からがら助かり、本堂、庫裡、檀信徒の方も大変な被害に遭いました。実際の体験から、いのち、生きることの尊さを、プロの演奏家の皆さんが三味線や打楽器、キーボードなどを交えて伝えます。

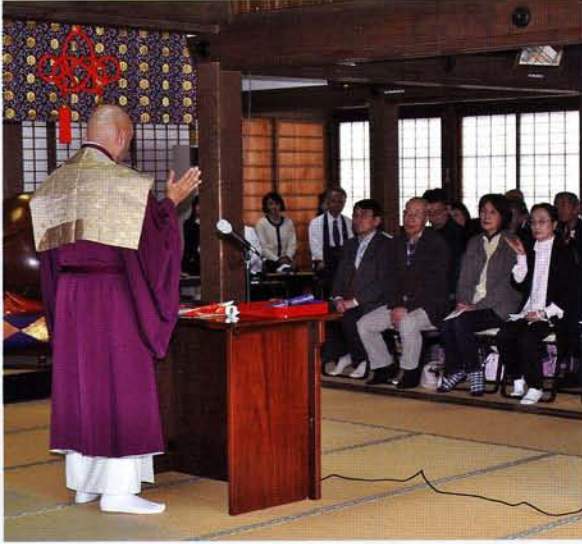
皆様のご参加をお待ちしております

### 北海道教区花園地方大会開催のご案内

2年に一度の北海道教区行事花園地方大会が11月6日～7日(水曜日～木曜日)に定山溪万世閣ホテルミリオネで行われます。各寺院の花園会員のみなさんと一緒に研修を通じて意見交換をしながら花園会員としての自覚を深めましょう

皆さんの参加お待ちしております。

※詳しい日程はお寺までご連絡下さい。



瑞龍寺花祭り法要が4月7日13時より本堂で行われました。法要の後、御詠歌が披露され法話の会に入りました。今年、愛媛県宇和島市光明寺住職・今野慈耕師による「おかげさま」についてのご法話を頂きました。今ここにある命が尊く、そして有難いと思っておりますか？この自分の命が、遠く遠く途切れることなく続いてきた無数のつながりよって生かされているのです。決して自分一人で生きているわけではありません。

その事に気づいた時に出てくる感謝の言葉が「おかげさま」なのです。

### 花祭り・春期定期巡教に参加して



5月12日、臥龍梅の蕾がやつと開きかけた少々肌寒い中、檀家の方々、坐禅会に参加された皆さん30名程が集まりました。

船場、佐藤両和尚さんの読経に、参加者は敬虔に手を合わせ、祭りは始まりました。

庭に並べられたテーブルには、寿司や焼ソバ等の皿に飲み物が並べられ、気の合った者同士が御馳走を囲んで和やかに談笑し、楽しいひと時を過ごしました。来年こそは満開の梅の花の中で開かれんことを祈りつつ。

### 梅祭り

境田博一

### 青壮年部交流会に参加して

上島鎮雄

今年の花園会青壮年部交流会は六月二十九日、三十日の予定で「パークゴルフ」発祥の地幕別町と「十勝川温泉」で行われました。二十九日は会員交流を目的としたパークゴルフ大会を夕食時に表彰式も兼ね懇親会をいたしました。

参加者は十二ヶ寺二十三名とちょっと淋しい交流会でしたが懇親会での杯が増すにつれ和気あいあいの楽しい仲間の宴になりました。ちなみに、個人優勝は正宗寺・松浦住職様・団体優勝は観音寺様でした。翌日は「役員、会員としての各寺においてどう活動していくか？」と云うテーマで自由に話し合いました。

各寺共通問題は少子化による「墓守り」「檀家」離れをどう防ぐか？田舎型から都市型になつていく？寺の敷居が高い？寺は誰のもの？もう少し寺を開放したら？など思い思いたくさんの意見が出ました。最後に松浦和尚から、各寺院の地域差・温度差があるのは仕方がない。でも町内・地域・住民とのコミニケーション、その中で寺はどうあるべきかもう一度、和尚、役員で話し合つてほしい。だれでも参加できる行事にすることで臨済宗の布教に力を貸して欲しい。また、この様な会には役員のみならず花園会会員幅広く参加してもらいたい。」でお開きになりました。私は初めて参加させて貰い有意義な二日間でありました、参加して得た知識をこれからのお寺のお手伝いに少しでも役に立てたいと思っております。

# 菩提寺から学ぶ

## 3

### お盆

8月の半ばにさしかかるといよいよ待ちに待ったお盆休み。里帰り、旅行、キャンプ、お墓参り等予定はさまざまだと思います。このお盆とは正しくは「盂蘭盆」（ウランバーナ）といい逆さに吊されて苦しむという意味からきてます。冥界で逆さ吊りの苦しみを受けている魂を、たくさんのお供え物やお飲み物をお供えして苦しみから救おうという昔からある仏教の行事です。

## 目蓮尊者の神通力

盂蘭盆の由来はお釈迦さまの弟子の目蓮尊者とその母親の物語です。ある時目蓮が神通力をつかい亡き母の様子を見ました。すると母は、餓

鬼道に堕ちており、ガリガリに痩せ衰えた姿になっていました。それを哀れに思った目蓮は、たくさんのお供え物と飲み物を母に差し出しました。しかし、母が食べようとすると、口のところで火に変わってしまい食べることが出来ませんでした。困った目蓮は、お釈迦さまに相談にいきました。するとお釈迦さまは、目蓮の母を餓鬼道から救うには神通力をもってしても難しい。「七月十五日」（旧暦八月十三日）僧自恣の日（自らの犯した罪を告白して総懺悔する日）にたくさんのお供え物をし、大勢で供養すれば救われると説かれました。目蓮はすぐさま実行したところ無事母を救うことが出来ました。



### 新しく評議員になられた方のご紹介



成田 正治



金澤 君枝

## 編集後記

今年も年明けからの寒波に始まり、この夏は猛暑が続いておりますが、会員の皆様はお変わりありませんか。私たちの菩提寺「瑞龍寺」も新しい役員さんが参加され、檀信徒の皆様との繋がりを更に強めていかなければと思っております。

特に昨今の若い世代のお寺離れが取りざたされており、瑞龍寺は葬儀のためだけでなく、発祥の「志の寺」の原点に立ち返って、心の安らぎを求める本当の意味での皆様の「菩提寺」となる為にもお寺の行事へ多くの皆様のご参加と、そしてご意見をお願い申し上げます。

花園会だより 編集委員

- 長尾 章郎 牧 信男 田村 康雄 福地 正明
- 村上 明志 森 隆明 坂本由紀子